



さかした 茂 樹
坂下しげき県議会リポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

医療拠点の市川総合病院

国際医療福祉大学に譲渡

坂下しげきの信念

私は毎回、市民の皆様方の声を県政に届け、県民のための改革を行うために登壇し、質問をさせていただいております。

政治の原点は、市民の声であると思います。市民の声をカタチ・政策にかえるのが政治の役割です。

私は、初心である“政治は誰のためにあるのか?!”“市民の汗である税金は誰のために使っているのか?!”という思いを胸に、少しでも市民の声がカタチになるよう、私に寄せられた県民のみなさま方の声について、質問させていただきます。

坂下 しげき

2月定例県議会一般質問



2月定例県議会で一般質問に臨む坂下しげき県議

市民、県民に寄り添った議員活動を信条にする坂下しげき県議は、2月定例県議会で登壇し、医療問題や水道料金の改定、道路整備、災害対策など多岐に渡る県政の課題について、県執行部に質問しました。長い間、市川市民らに充実した医療を提供してきた市川総合病院が、東京歯科大学から国際医療福祉大学に譲渡されましたが、坂下しげき県議は4月1日の同病院の再出発に先立って一般質問で取り上げ、医療提供体制の維持などについて県執行部に質しました。坂下県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

坂下議員 市川総合病院が2026年4月に、東京歯科大学から国際医療福祉大学に事業譲渡されると、突然、発表があった。

市川総合病院は、市川市では最大の500床を超える病床があり、30近い診療科がある。この事業譲渡について、市民から高い関心と不安が寄せられた。

そこでうかがうが、東京歯科大学市川総合病院の承継に関して、病床数や診療科など医療提供体制は維持されるのか、県としてどの

ように対応するのか。

保健医療担当部長 同病

院は、地域がん診療連携拠点病院などの指定を受けているほか、令和6年度は5700件を超える救急搬送を受け入れるとともに、医師等の教育も行うなど、地域の医療提供体制や医師の確保において重要な役割を担ってきたと認識をしています。

持するとともに、救急医療やがん診療の提供、医師・歯科医師の臨床研修についても継続すると聞いております。

県では、病院の運営主体の変更にかかる開設許可申請などの様々な手続が円滑に進むよう、必要な助言な

同病院は、令和8年4月1日付けで、国際医療福祉大学に運営主体が変更されますが、変更後も、これまで行うことにより、引き続き、東葛南部医療圏の医療提供体制の確保を図ってまいります。

地域医療への役割 病院承継後も維持

再質問
坂下議員 地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域の皆様が安心して医療を受けられるよう努めてまいります。

保健医療担当部長 国際医療福祉大学においても、地域医療支援病院など、今まで同病院が担ってきた役

聞いております。

県では、これらの役割を引き継ぐために必要な手続が円滑に進むよう、必要な助言などを行っているところですが、今後も関係機関と連携し、必要な情報収集を行うとともに、医療提供体制に懸念が生じるような場合には、県としても速やかに対応するなど、引き続き、

坂下しげき PROFILE

經歷

昭和49年11月 市川市生まれ
昭和62年 3 月 市立菅谷小学校卒
平成 2 年 3 月 市立第一中学校卒
平成 5 年 3 月 船橋法典高校卒
平成 9 年 3 月 日本文化大学卒
金子和夫県議秘書
平成15年 4 月 市川市議会議員初当選
(2期連続当選)
平成23年 4 月 県議会議員初当選

現 職

県議会 総合企画企業常任委員会

メモ 市川総合病院は多額の赤字により東京歯科大学から国際医療福祉大学へ事業譲渡され、4月1日に国際医療福祉大学市川総合病院として再出発しました。

県政や地元 市川市のご相談、ご要望をお寄せください

坂下しげき 県議事務所

フリーダイヤル
TEL.0120-033558
FAX.047-318-0500



小児二次救急医療の安定運営



千葉県こども病院の経営も苦しい

安心して子育てできる医療体制を

坂下議員 小児医療の充実がなければ安心して子育てができない。しかし、小児医療は様々な課題に直面している。

厚生労働省の資料では、小児救急医療の特徴として、小児人口の減少にもかかわらず、小児の救急搬送は横ばいであること、救急搬送された成人と比較し、乳幼児や少年の多くは入院にならないこと、休日夜間の初期救急を受診した小児の95%以上は、高次医療機関への転送とならないことが示されている。

つまり、小児救急医療は必要とされている一方で、入院が伴わないため、診療報酬が上がらず、経営に困難が伴う診療科であることもうかがえる。

そこで、本県の医療体制を踏まえ、「小児二次救急の経費に対する補助に加え、病床稼働率が低い小児病床に対する補助を行うこと」についてどうか。

保健医療担当部長 少子化や予防接種の普及による疾病構造の変化に伴い、小児の入院患者は減少していますが、入院を要するすべての小児患者に対応できるよう小児二次救急医療体制を確保することは重要と認識をしています。

一方で、国においては、小児の診療体制の確保に関して、入院医療を集約化するなどして、限られた医療資源を効率的に活用することを求めているところであり、県としても持続可能な医療

提供体制を構築するためには、このような考え方も踏まえ、体制を構築していくことが必要と考えています。

小児専用の病床の確保・維持への財政支援については、

診療報酬見直し、国へ要望

坂下議員 小児二次救急医療機関は、経費を診療報酬等の収入のみで賄うことが困難な状況であるため、経費に対する補助支援を行うことについてどうか。

保健医療担当部長 小児医療や周産期医療、救急医療など、不採算になりやすい政策的な医療については、一定の補助が必要と認識しており、県では、夜間・休日における小児二次救急の受入体制確保のため、市町村等が実施する病院群輪番体制の構築に要する経費への補助、広域で小児二次救急患者を受け入れる拠点病院への補助を実施していると

坂下議員 本県では、共益費の徴収を自治組織で行うものとされている。しかし、高齢化に伴い、組織の活動体制の確保も課題となっており、共益費の未払いが多くなっている。

そこだろうか、県営住宅において、共益費が円

滑に徴収できる手法について検討していくとのことであったが、その後の取組状況はどうか。

都市整備局長 共益費の徴収について実態を把握するため、昨年10月から本年1月にかけて、自治会に対する調査を行ったところ、全14

6自治会中96の自治会から回答があり、高齢化による役員のなり手不足により徴収が困難となっているといった意見とともに、29の自治会から県による徴収を希望する旨の回答がありました。

また、昨年11月には、共益費の徴収を県が実施して

共益費徴収、高齢化で困難 自治会、「県が徴収を」

坂下議員 国道14号の市川市鬼越二丁目交差点における渋滞対策の状況はどうか。

県土整備部長 国道14号と県道市川印西線が交差する鬼越二丁目交差点では、県道側直近にある京成線の踏切の影響を受け、国道14号から印西方面への左折車が滞留し、千葉方面への直進

を阻害して、渋滞が発生している状況です。

現在、この解消にも寄与する、京成線をアンダーパスする立体交差事業を行っているところですが、事業完了までの対応として、当該交差点の渋滞区間において、案内看板の設置や路面標示を検討しており、引き続き、警察と協議を進めて

市川南インター南交差点 交通量多く渋滞発生

坂下議員 せっかく妙典橋が開通して、地元の方も

鬼越二丁目交差点の渋滞緩和 京成線立体交差に期待

今後、小児人口の減少が見込まれる地域が多いことを踏まえ、地域の将来の医療需要の推移を見据え、慎重に検討を進めてまいります。

補正予算において、医療分野における賃上げや物価上昇に対する新たな支援制度が創設されたことから、県としても12月に補正予算を編成し、専決処分を行ったところであり、これらの支援を小児二次救急医療機関も含めたすべての対象施設に早期に実施できるよう取り組んでいます。

一方、医療機関の経営は、本来、診療報酬により賄われるものであることから、国に対し持続可能な医療体制の確保に向け、診療報酬の見直しを行うよう要望しているところであり、引き続き様々な機会を捉えて国へ働きかけてまいります。

喜んでいるところだが、大渋滞でなかなか使い勝手の悪い道路となっている。

その鍵となるのが、妙典橋から外環自動車道に交差する、市川南インター南交差点の渋滞解消。この交差点の渋滞解消に向けてどのように取り組んでいるのか。

県土整備部長 当該交差点は、国道298号と、県道船橋行徳線が交差しており、交通量が多く、国道298号で1日当たり約30000台、県道船橋行徳線では約7000台となっています。

現在は、昨年12月に行った交差点の交通量などの調査結果をもとに、渋滞の状況や要因を確認しているところであり、今後、当該交差点を管理している国や関係機関と調整を図りながら、必要に応じて、渋滞解消に向けた取組について検討してまいります。

要望 **坂下議員** 正しく費用を負担している住民に不公平が生じないよう、早急に改善していただくよう要望する。

分散し1万1千人分

ようなので、こちらへの警戒も実施していただくことを要望する。

都市計画道路柏井大町線及び西浦藤原町線

バイパス、早期開通望む

坂下議員 都市計画道路柏井大町線及び西浦藤原町線の道路整備は市川市の大柏地区の方々に期待されているにもかかわらず、進んでいるのかいまいちわからない状況にある。

そこで、柏井大町線及び西浦藤原町線の進捗状況はどうか。

県土整備部長 当該路線は、現道がクラック状に交差し、慢性的に渋滞が発生していることから、交通の円滑化を図るため、船橋市上山町地先から市川市柏井町地先までの約1・2キロメートル区間でバイパス整備を進めています。

現在、用地の取得率は全体で約6割、このうち市川市域については約7割となっており、まとまった用地が確保できた箇所から、順次道路改良工事を進めている

デジタル障がい者手帳

アプリの改善望む声

坂下議員 障がいをお持ちの方やそのご家族の方が、必要な支援や助成を受けるために、障がい者手帳を持ち歩く必要があるが、現在交付されている紙の障がい者手帳を常に携帯しているのは不便であるとのご意見を多数うかがっている。この

ため、過去の議会でも障がい者手帳のカード化を要望してきた。

これに対し、本県では、民間事業者が開発したデジタル障がい者手帳アプリを推奨しているが、このアプリに対しても利用者の方から、改善が必要であると指

摘がある。

そこで、柏井大町線及び西浦藤原町線の道路整備は市川市の大柏地区の方々に期待されているにもかかわらず、進んでいるのかいまいちわからない状況にある。

健康福祉部長 デジタル障がい者手帳は、民間事業者が開発したスマートフォン

坂下議員 都市計画道路

柏井大町線及び西浦藤原町線の道路整備は市川市の大柏地区の方々に期待されているにもかかわらず、進んでいるのかいまいちわからない状況にある。

そこで、柏井大町線及び西浦藤原町線の進捗状況はどうか。

県土整備部長 当該路線

は、現道がクラック状に交差し、慢性的に渋滞が発生していることから、交通の円滑化を図るため、船橋市上山町地先から市川市柏井町地先までの約1・2キロメートル区間でバイパス整備を進めています。

現在、用地の取得率は全体で約6割、このうち市川市域については約7割となっており、まとまった用地が確保できた箇所から、順次道路改良工事を進めている

坂下議員 鉄道は毎日のように多くの県民の方々が利用するが、転落事故や列車等との接触事故の危険があり、命を脅かすもので、実際に年間2千件を超える転落事故が起きている。しかし、ホームドアを設置することで県民の命を守ることがで

引き続き、地元の皆様のご理解と御協力をいただきながら、早期完成を目指して事業を推進してまいります。

坂下議員 本路線の整備は木下街道の渋滞解消にもつながるため、早期開通に向けて事業を推進するよう要望する。

乗客の命を守るホームドア

設置促進へ県単独補助を

坂下議員 鉄道は毎日のように多くの県民の方々が利用するが、転落事故や列車等との接触事故の危険があり、命を脅かすもので、実際に年間2千件を超える転落事故が起きている。しかし、ホームドアを設置することで県民の命を守ることがで

坂下議員 鉄道は毎日のように多くの県民の方々が利用するが、転落事故や列車等との接触事故の危険があり、命を脅かすもので、実際に年間2千件を超える転落事故が起きている。しかし、ホームドアを設置することで県民の命を守ることがで

用のアプリであり、障がい者手帳の情報を画面に表示する機能を有していることから、鉄道の運賃割引などの資格確認の際に、障がいのある人の利便性を高めるものと認識しています。

県では、デジタル障がい者手帳の機能などについて、ホームページで紹介するとともに、県の施設にお

国分前橋東側交差点
信号機設置できず
引き続き安全対策

坂下議員 市川市の国分前橋東側の交差点に信号機を設置できないが、また、信号機が設置できない場合における当該交差点の安全対策はどうか。

警察本部長 当該交差点は、赤信号で停止した自動車等の側方を自動車等が安全にすれ違うことができるだけの道路幅員が確保されていないため、信号機によ

いて資格確認に利用できないことを周知することにより、認知度の向上を図っています。

今後は、デジタル障がい者手帳の利便性向上を図るため、資格確認の手段として導入していない市町村に導入事例を紹介するとともに、利用者から寄せられた要望をアプリ開発事業者

る交通整理を行うことはできません。

当該交差点には、一時停止及び横断歩道の交通規制のほか、道路管理者による注意喚起に資するカラー舗装などもなされており、引き続き必要に応じ、道路管理者と連携した安全対策を検討してまいります。

坂下議員 色々対策していただいているので、危険性は認識していると思う。是非ともスムーズに通行ができるよう要望する。

坂下議員 デジタル障がい者手帳については、利用者の視点に立ち、障がいを持つ方や御家族が利用しやすいよう、県も改善に向けて働きかけていく必要があると考えます。

今後、デジタル障がい者手帳の利便性向上を図るため、資格確認の手段として導入していない市町村に導入事例を紹介するとともに、利用者から寄せられた要望をアプリ開発事業者

北方十字路交差点
木下街道市川市街側
右折矢印信号の設置
幅員狭く設置できず

坂下議員 県道松戸原木線と県道市川印西線木下街道が交差する北方十字路交差点について、同交差点に県道松戸原木線から進入して右折する場合

には、右折矢印信号が設置されていますが、木下街道から入る場合は、右折矢印信号がない。私のもとにも右折矢印信

や京葉線を含む4路線の全駅で整備される見通しであるほか、東京メトロでは、今年度中に東西線の全駅で整備が完了する見込みです。

また、京成線では鬼越駅でホームの補強工事が進められているほか、東武野田線では新鎌ヶ谷駅などで整備される予定であり、いずれの路線も令和17年度までにそれぞれ10駅と4駅で整備が完了する見込みとなっています。

号の設置を求める声が多くある。

そこで、北方十字路交差点に木下街道側から進入する場合にも右折矢印信号を設置すべきと思うがどうか。

警察本部長 北方十字路の木下街道については、印西市側には右折レーンの設置がありますが、市川市街側については、路面に直進及び左折と右折の標示はあるものの、右折レー

旧血清研究所跡地
有効利用を希望の
市川市と協議続行

坂下議員 旧血清研究所跡地の利用について、現状と今後の予定はどうか。

健康福祉部長 旧血清研究所の跡地については、県での活用が見込めないため、処分する方針であり、現在

◆その他の質問

◆県道市川松戸線の市川市国府台地先について、歩行者の安全対策に取り組むべきと考えるがどうか。

◆国道14号市川市役所前にある八幡2丁目歩道橋の老朽化対策の状況はどうか。

◆旅券事務の権限を委譲した市町の負担軽減に向け、現場の意見や課題を直接吸い上げる場を県で設ける考えはないか。

◆県は、排出事業者として、プラスチックの再資源化にどのように取り組んでいるか。

◆動脈産業である製造事業者

や、大型車を含めた車両が右折待ちで滞留できる十分な車線幅員はありません。

国が示す指針では、右折矢印信号の設置場所として、必要性に加え、右折専用車線又は右折待ち車両が滞留できる車線幅員があるときに設置することとされており、現状では、当該交差点の木下街道にすることは困難となります。

建物の解体工事の実施設計を行っているところです。

また、地元の市川市から、跡地を公共用地として活用することについて相談を受けており、活用に向けた考え方や具体的な内容を伺いながら、地域にとって有効活用と住民の福祉の増進が図られるよう、引き続き協議してまいります。

◆選挙における通称の使用について、どのような基準で認定しているのか。

◆監査委員事務局の職員に対し、知識の習得や調査技術の向上にどのように取り組んでいるのか。

◆監査委員事務局の職員調査を効率的に行うため、デジタル技術や生成AIの活用を図るべきと思うがどうか。